

A会場

アンジェラ・ルッジェーロ	<p>Angela Ruggiero is a leading figure in the global sports world, having served as an elite athlete, educator, administrator, innovator, advisor, and board member in the world of sport.</p> <p>She is the CEO and Co-Founder of the Sports Innovation Lab (https://www.sportsilab.com), a technology powered market research firm focused on the intersection of sports and innovation- with a focus on identifying trends and evaluating technology products and services that will drive the future of sport. The Sports Innovation Lab is the only company in the world delivering objective global sports technology research, powered by a proprietary technology platform.</p> <p>Ruggiero is a Member of the 2015 Hockey Hall of Fame (as just the 4th woman), a 4-time Olympian in ice hockey, winning a Gold Medal in 1998, Silver Medal in 2002 and 2010, and a Bronze Medal in 2006. In her career, she was also named as the best Player in the NCAA, and the World by The Hockey News.</p> <p>She currently serves on the IOC's Digital and Technology Commission, the IOC Ethics Commission and is a Member of the International Ice Hockey Federation Athletes' Commission. In addition, through Sports Innovation Lab's partnership with the NFLPA, Ruggiero is a Board Member of the NFLPA's One Team Collective, the first athlete-driven accelerator.</p> <p>Ruggiero has served the Olympic Movement on the administrative and board levels for almost a decade. She was a Member of the International Olympic Committee (2010-2018), Executive Board of the International Olympic Committee (2016-2018), the organization overseeing the Olympic Movement, and the Chairperson for the IOC Athletes' Commission (2016-2018), the body representing all Olympic Athletes Worldwide. She has also served on the Board of the United States Olympic Committee (2010-2018), Foundation Board Member of the World Anti-Doping Agency, and Former President and board member of the Women's Sports Foundation. Ruggiero, was also the Chief Strategy Officer for the Los Angeles 2028 Candidature Committee.</p> <p>Ruggiero is a graduate of the Harvard Business School (M.B.A.), Harvard College (B.A.), and the University of Minnesota (M.Ed.).</p>
米田 恵美	<p>2004年に新日本監査法人入社、公民様々な業種の監査や経営アドバイザーを担当し、2006年に慶應義塾大学経済学部卒業。2013年に独立と共に組織開発パートナーである(株)知恵屋を共同設立。米田公認会計事務所所長。2017年にはJリーグフェローを経て、2018年よりJリーグ理事(社会連携・組織開発担当)。保育士資格を持ち在宅診療所の立ち上げにも従事。</p>
キャメロン・マイラー	<p>Cameron Myler is a Clinical Assistant Professor at New York University's Tisch Institute of Global Sport, where her teaching and research are focused on legal issues relating to Olympic sport, international sports governance, the regulation of doping in sport, the transformative power of sport, as well as athletes' commercial rights, branding and career transitions.</p> <p>Cameron is a member of the Court of Arbitration for Sport, which adjudicates eligibility, doping, ethics and commercial matters related to sport. She served on the Anti-Doping Division of CAS at the 2018 Winter Olympics PyeongChang. Prior to practicing law, Cameron competed in four Olympic Games in the sport of luge (including the 1998 Olympics in Nagano), and was elected by her teammates to carry the American flag at the Opening Ceremonies of the Olympics in Norway. She was U.S. National Champion seven times and won 11 World Cup medals. Cameron is committed to using sport to promote development and social change and serves as an athlete ambassador for two nonprofit organizations she supports: Kids Play International and Athlete Ally.</p>
池田 敦司	<p>大学卒業後、大手百貨店で営業政策・顧客戦略・販売促進・マーケティング業務に従事。2005年楽天イーグルスの創設に参画、取締役副社長としてボールパーク構想を推進、2013年に日本一を経験した他、パリーグ合同事業会社の取締役を歴任。その後、ヴィッセル神戸代表取締役社長に就任、プロ野球とプロサッカーの2大プロスポーツの経営執行を経験。2017年より仙台大学教授、2019年3月より一般社団法人大学スポーツ協会専務理事。</p>
ブリアンナ・レイ・ニューランド	<p>Dr. Bri Newland is the Academic Director of Undergraduate Programs and Clinical Associate Professor with the Tisch Institute for Global Sport at New York University. Her research explores the overlap between sport policy, the future patterns of sport delivery and the development of sport. This includes research on: how sport organizations sustain their future by attracting and nurturing participation – both elite and mass participation; what fosters/hinders adult participation in sport and how our sport delivery systems might be modified to foster growth; how key stakeholders impact the development and delivery of sport; and how sport events can be leveraged to develop sport and community, especially at the grassroots level. Her work has been published in a number of journals and she has published a number of books and chapters.</p>
吉村 幹生	<p>2003年 東海大学体育学部体育学科卒業 2004年 NFL Japan 入社 Football Development Assistant 2007年 コネチカット州立大学修士課程 修了 (Sport Management & Sociology) 2007年 ボストン・レッドソックス 入社 Ticket Service Associate 2008年 ボストン・レッドソックス 広報/Japanese Media Liaison 2013年 ボストン・レッドソックス アジア事業戦略担当 兼 広報 2016年 フェンウェイ・スポーツマネージメント アジア事業戦略担当 兼 広報 兼任 2017年 リバプールFC日本地区営業担当を兼任</p>

27日 B会場	
太田 雄貴	<p>1985年11月25日生 平安中学・平安高校（現:龍谷大学付属平安中・高校）、同志社大学出身。 小学校3年生からフェンシングを始め、小学、中学、高校と全国大会を連覇。 高校2年生で全日本選手権優勝。 2008年北京オリンピック 個人銀メダル獲得。 2012年ロンドンオリンピック 団体銀メダル獲得。 2015年フェンシング世界選手権 個人金メダル 2016年リオデジャネイロオリンピックにも出場。 日本人で初めてとなる国際フェンシング連盟 理事に就任し 同年に現役引退。 2017年6月、日本フェンシング協会理事に就任。 2017年8月、日本フェンシング協会会長に就任。 2018年12月、国際フェンシング連盟 副会長に就任。</p>
井上 利彦	<p>2001年～ 広告代理店数社を経験 2010年～ PR会社「サニーサイドアップ」にて、東京マラソン、震災復興プロジェクト、ロンドン2012大会、2020招致活動等のスポーツ事業 や広報PRを担当 2014年～ 東京2020組織委員会へ転職し、各種プロジェクトのPRプランニングやエンゲージメント戦略を担当</p>
岡部 恭英	<p>サッカー世界最高峰UEFAチャンピオンズリーグに関わる初のアジア人。スイス在住。Jリーグアドバイザー。欧州サッカー協会専属マーケティング代理店勤務。 NewsPicksプロピッカー。 「日本スポーツビジネス大賞」審査委員。 「九州スポーツビジネスサミット」アドバイザー オンラインサロン【Live Your Dreams!】オーナー。 著書「国際スポーツ組織で働こう！」 英国ケンブリッジ大学院MBA 慶應義塾大学サッカー部出身。 夢は「日本でFIFAワールドカップを再開催して、日本代表が優勝」！</p>
早野 忠昭	<p>1958年生まれ。長崎県出身。一般財団法人東京マラソン財団事業担当局長・東京マラソンレースディレクター、日本陸上競技連盟総務企画委員、国際陸上競技連盟ロードランニングコミッション委員、スポーツ庁スポーツ審議会健康スポーツ部会委員、内閣府保険医療政策市民会議委員。1976年インターハイ男子800m全国高校チャンピオン。筑波大学体育専門学群卒業後、高校教諭、アシックスボウルダーマネージャー、ニシ・スポーツ常務取締役を歴任。</p>
文 晟新	<p>2014年にCyberZに中途入社。広告代理店事業部にて韓国系ゲームクライアントの開拓に従事。 2015年にCyberZ韓国の支社長に就任。 2019年、eスポーツに特化したマーケティング会社「CyberE」を設立し、代表取締役に就任。「eスポーツ市場に新しい価値を創造し、世界に革新をもたらす」という理念のもとに商品企画やイベント企画・運営などを行っている。</p>
27日 C会場	
神田義輝	<p>Jリーグ選手、Bリーグ選手等、様々な競技のトップアスリート4000名に対して、教育プログラム設計・ファシリテーションを経験。引退選手の再就職支援は約200名サポート。クラブや各種競技団体に対し、社会的価値の高い選手育成スキーム構築のコンサルテーションを経験。現在、水戸ホーリーホックにて、選手育成スキームの構築、地方創生の役割を担う。また、Criacao Shinjukuにおいて、事業開発、組織開発、人材開発に従事。</p>
富田欣和	<p>慶應SDM・特任講師、関西学院大学経営戦略研究科・准教授。knots associates株式会社 代表取締役CEO。システムズエンジニアリングを用いた社会システムデザインを専門とし、新規事業開発や研究戦略立案プロジェクトなどを多数行う。日本ラグビーフットボール協会代表強化部コンサルタントとして、主に7人制の育成システムの設計を担当。日本政策投資銀行、宇宙航空研究開発機構（JAXA）等でのアドバイザー・評価委員も歴任。</p>
奥村誠浩	<p>2003年株式会社電通入社。入社より10年程度、多岐にわたる領域のストラテジストとして活躍し、その後、広告・PR・ウェブ等の統合的なキャンペーンのクリエイティブディレクターに。ストラテジーとクリエイティブスキルを統合し、現在は新規領域の事業開発・プロダクト開発も行う。スポーツ領域では協賛プロジェクトの推進・オフィスプロデュース・アメリカンフットボールトップリーグ「電通キャタピラーズ」のヘッドコーチも務める。</p>
日比昭道	<p>電通に新卒入社し、ストプラ局、営業局を経験。その後、インターナルマーケティング、エクスペリエンスマーケティング等の専門部署を経て、現在は、クリエイティブプランニング局に所属。ストラテジックプランナー、ビジネスディベロッパー、ファシリテーターの3足のわらじで活動。 根っからのスポーツ好きであり、社会人アメリカンフットボールのトップリーグの選手の経験も。 アスリートプレーンズ プロデュースチーム/BASE Qビジネスディベロッパー/中小企業診断士</p>
27日 D会場	
松本 英明	<p>システムエンジニアとして入社後、キヤノンのR&Dセンターで、顔認識などのオブジェクト認識技術の研究開発を担当。主に金融業界のシステム開発プログラマー、システムアーキテクト、プロジェクトマネージャを経験。その後、海外子会社立ち上げのため、開発リーダーとして5年間ニューヨークに赴任。帰任後、企画部門を経て、ANAへ入社。2017年よりデジタル・デザイン・ラボ/マネージャーとして、スポーツ&教育事業化プロジェクトを推進中。</p>

大浦征也	2002年、株式会社インテリジェンス（現社名：パーソルキャリア株式会社）入社。人材紹介事業に従事。法人営業を経験した後、キャリアアドバイザーとして転職希望者のキャリアカウンセリングやサポートに長年携わる。担当領域は多岐にわたり、これまでに支援した転職希望者は10,000人を超える。その後、キャリアアドバイザーの総責任者、法人営業部隊も含めた地域拠点の総責任者などを経て、2017年より現職。JHR（一般社団法人人材サービス産業協議会）キャリアチェンジプロジェクトメンバー、SHC（公益財団法人スポーツヒューマンキャピタル）理事にも名を連ねる。
三浦優希	もともとプロ選手であった父の影響で、幼少期からアイスホッケーを始める。東京都東大和市の公立中学を卒業後、早稲田実業学校高等部にアイスホッケーのスポーツ推薦で入学。2013年（高校2年生）の8月にチェコ共和国に短期留学したとき、20歳以下のトップリーグに所属するチームから移籍のオファーを受け、同年11月より本格留学を開始。その際早実は自主退学し、日本の通信制高校に転校。チェコでは2年間プレイし、2015-16シーズンにはリーグ得点王を記録、シニアチームからプロ契約を提示されるも、それと同時期にアメリカの20歳以下トップリーグのチームからドラフト指名を受け、翌2016年から渡米。そのチームでの活躍が評価され、日本人アイスホッケー選手としては初のNCAA Division 1に所属するLake Superior State Universityから奨学金オファーを受け、2017年秋より入学。現アイスホッケー日本代表の学生アスリート。
高田晋作	2000年NHK入社後、2005年三菱地所へ転職。 オフィスビルのテナント営業を行うかたわら、ラグビーワールドカップ2019プロジェクトの立ち上げを行う。丸の内を舞台にした、街づくり×ラグビーのプロジェクト「丸の内15丁目プロジェクト」自治会長。大学時代は、慶應義塾大学ラグビー部で主将として、創部100周年の年に大学日本一。
27日 E会場	
中竹竜二	日本ラグビーフットボール協会 コーチングディレクター 株式会社チームボックス 代表取締役 一般社団法人スポーツコーチングJapan 代表理事 一般社団法人日本ウィルチェアーラグビー連盟 副理事長 1973年福岡県生まれ。早稲田大学卒業、レスター大学大学院修了。三菱総合研究所を経て、早稲田大学ラグビー蹴球部監督に就任し、自律支援型の指導法で大学選手権二連覇を果たす。2010年、日本ラグビーフットボール協会「コーチのコーチ」、指導者を指導する立場であるコーチングディレクターに就任。2012年より3期にわたりU20日本代表ヘッドコーチを経て、2016年には日本代表ヘッドコーチ代行も兼務。2014年、企業のリーダー育成トレーニングを行う株式会社チームボックス設立。2018年、コーチの学びの場を創出し促進するための団体、スポーツコーチングJapanを設立、代表理事を務める。 ほかに、一般社団法人日本ウィルチェアーラグビー連盟 副理事長 など。 著書に『新版リーダーシップからフォロワーシップへ カリスマリーダー不要の組織づくりとは』（CCCメディアハウス）など多数。
神事 務	1979年生。バイオメカニクスを専攻し、中京大学大学院にて博士号を取得。学位論文では、投手が投球したボールの回転速度、回転軸角度を数学的に算出。第18回日本バイオメカニクス学会奨励賞、第55回東海体育学会奨励賞、日本バイオメカニクス学会優秀論文賞、秩父宮記念スポーツ医・科学賞奨励賞を受賞。2007年から国立スポーツ科学センター（JISS）のスポーツ科学研究部研究員。北京オリンピックでは、女子ソフトボール代表チームをサポートした。2015年4月から國學院大学人間開発学部に着任。バイオメカニクスを担当。楽天ゴールデンイーグルスにてトラックマンを使った選手の能力開発のサポートを経験。その後、データによるスポーツチームの強化を広めることを目的に、現社長の中尾氏らとともに株式会社ネクストベースの立ち上げに関わる。
林 卓史	朝日大学経営学部准教授／慶大野球部前助監督 岩国高校-慶大-日本生命-慶大コーチ-朝日大学監督-慶大野球部助監督。2016年より、慶大にて助監督として投手育成を担当。2017年よりラプソードを用いた投手育成を実践し、高校時代の実績のない選手を150km超の投手に育てるなどその育成手腕はプロも注目する。東京六大学にて2連覇連続優勝を達成し、2018年秋季リーグをもって退任。現在は朝日大学に戻り教鞭を取る傍ら、様々な野球チームに請われ投手育成のノウハウを伝授している。
大野倫	沖縄水産高校元エース、NPO法人野球未来.R y u k y u 理事長 1973年沖縄県生まれ。沖縄水産高校時代、夏の甲子園2年連続準優勝を経験。3年時は決勝までの4連投を含む全6試合を完投し、のちに右ヒジの骨折が発覚する。進学した九州共立大学では投手を断念し、打者に転向するも大学日本代表として活躍。95年読売巨人軍に入団し、ダイエーホークス（現ソフトバンク）を経て、02年引退。現在は故郷の中学硬式クラブうるま東ボーイズの監督を務め、19年3月に野球の普及・振興を目的として、「NPO法人野球未来.R y u k y u」を立ち上げて理事長を務める。
渡邊幹彦	東京明日佳病院院長 / 全日本野球協会 医科学部会部会長 1960年生まれ、香川医大卒。スポーツ 整形を専門とし、シドニー五輪・アテネ五輪および第3回WBCの日本代表チームドクターを務める。東京明日佳病院院長の職務を果たす傍ら、日本整形外科スポーツ医学会評議員や全日本野球協会医科学部会長としてスポーツ医科学分野へ情熱を注ぐ中、日本高野連「投手の障害予防に関する有識者会議」にも主要メンバーとして参加した。
氏原 英明	スポーツジャーナリスト 1977年ブラジル生まれ。奈良大学を卒業後、地方新聞社でのアルバイト勤務を経て、フリー活動を開始。高校野球を中心に活動を続けるが、野球を通じた人間性、人生観を伝え続け、Numberのほかに野球専門誌で活躍。WEBの世界でも「人間力×高校野球」（高校野球情報.com）と題したコラムを連載している。最新刊は2018年夏に上梓された『甲子園という病』（新潮新書）。長年にわたる甲子園取材の知見を凝縮した筆者渾身の一冊としてスポーツジャーナリズム界を超えて話題になる。
中嶋 文彦	電通で国内外企業のブランド戦略を担当。退職後、アイ・エム・ジェイで、ネットマーケティング部門運営、子会社役員、CCCのTポイントECモールの事業化/収益化を行う。2008年末に電通再入社。ロボティクス、IoT、生体センサーなど先端技術活用での自社、パートナーとの事業開発、事業投資を行う。またスポーツ×テクノロジーをテーマに電通が主催するグローバル・アクセラレーション・プログラム"SPORTS TECH TOKYO"を率いる。大企業のイノベーション支援、スタートアップの事業支援も多数。

田上 裕貴	1998年に伊藤忠商事入社。2011年ITOCHU International Inc(New York)、2012-2015 Tyr Energy Inc (Kansas City)、2016年に帰国後、2018年より現所属部署でスポーツビジネスを開始。
悴田 康征	2009年早稲田大学卒業後、経済産業省に入省。地域経済政策や貿易政策等を担当。 2015年から2年間、オーストラリアのグリフィス大学でスポーツマネジメント修士号を取得。 2017年6月からスポーツ庁に出向中。 スタジアム・アリーナ改革やスポーツ経営人材の育成・活用、SOIP（スポーツオープンイノベーションプラットフォーム）、スポーツシェアエコの推進等を担当。
林 裕幸	2013年株式会社横浜DeNAベイスターズに入社。 事業計画策定、球場改修計画（コミュニティボールパーク化構想）策定、マーケティング分析・顧客戦略策定、などを担当。2017年より経営戦略・IT戦略部部長を担当（現任）。 加えて、横浜スポーツタウン構想や球場外拠点「THE BAYS」等の新規事業の推進、全社IT戦略策定、デジタル活用推進などを手掛ける。
綿引 勝美	1954年生まれ、1981年広島大学大学院教育学研究科教科教育学専攻終了（教育学修士）、現在、鳴門教育大学教授
中村 聡宏	2000年「スポーツナビ」立ち上げを皮切りに、広告、出版、印刷、WEB、イベントなど多分野における企画・制作・編集・運営等の業務に従事。経済産業研究所・上席研究員だった広瀬一郎氏とともに「サッカーW杯事後調査」「Jリーグ発足時の制度設計」調査研究やスポーツマネジメントスクール（SMS）を設立。2015年より千葉商科大学サービス創造学部専任講師に就任。また、一般社団法人日本スポーツマンシップ協会を発足、代表理事を務めスポーツマンシップ教育に尽力する。